

2022年12月9日
『ウクライナに「使い捨てカイロ」を送る』会
代表 武田 徹
連絡先:福島市南沢又字曲堀東 8-6
080-9628-6807
Tel/fax 024-558-3973

凍えているウクライナの人たちに 「使い捨てカイロ」を送ろう

今年2月に突然ロシア軍がウクライナに侵攻を開始してから9か月過ぎ、いつ終わるともしれない戦闘が続いている。この間、多くの人の命が失われ、海外に逃れた人も数知れません。

目下最大の問題は、ロシア軍がウクライナ全土の主要インフラをミサイル攻撃したことにより、各地では、停電や断水が発生していることです。気温が氷点下になる中、現地のウクライナの人たちが暖房や水のない生活を強いられている状況となっています。

国連による様々なロシア非難決議やトルコ等による停戦交渉が実現しない中、私たちにできることは何かと考えた時、日本人が生み出した「使い捨てカイロ」を送ることであると考えるに至りました。

ウクライナ大使館とその下で働いているウクライナ人トカル・レーシャさんとの話し合いの結果、1月の船便で支援物資（使い捨てカイロを含む）を送ることになりました。

それで訴えます。趣旨に賛同される方は、家の中で眠っているカイロ、あるいは、大分時間の経っていても使えるカイロを、下記宛に持ち寄るか、送ってください。ご協力よろしく申し上げます。

□ 締切：2023年1月10日

「ウクライナ助けたい」福島男性、全国に呼びかけ



第1便の発送式で、トラックに荷積みされた使い捨てカイロの前で支援者に感謝を述べる武田代表=23日午後0時半ごろ、山形市の第一貨物

男性は住居団体「ウクライナに使い捨てカイロを送ろう会」の武田代表(82)。原発事故直後から米沢市に避難し、昨年まで約11年暮らした。ロシアの侵攻で避難したり、不自由な生活を強いられたりするウクライナ国民の姿に「福島原発事故被害が重なり、助けたい」と思い立った。団体を設立し、先月から10日まで支援を呼びかけると、北海道から鹿児島

東京電力福島第一原発事故により米沢市で避難生活をしていた福島市の男性が、ロシアの軍事侵攻に苦しむウクライナに使い捨てカイロを送る活動を始めた。呼びかけに全国から30万個以上の協力が集まり、23日に第1便の約3万個が送られた。インフラが攻撃され、暖房がない冬を過ごすウクライナ国民も少なくない。男性の「避難生活で世話になった恩を別の形で返したい」との思いが実現した。

カイロ30万個 心温まる支援

原発避難経験「不自由な生活重なる」

山形から第1便、思い実現

まで多くの使い捨てカイロが集まった。「ぜひ参加したい」「日本から応援している」といったメッセージも寄せられた。武田さんは「2万3万個くらい集まればいいと思っていたと感謝する。

支援の輪も広がった。山形県平和センター(山形市)など山形、福島両県の市民団体や企業が物資の受付窓口や仕分け作業を担当。運送業の第一貨物(同市)が陸送や一時保管を引き受け、郵船ロジスティクス東北(同市)が現地までの輸送を快諾した。

山形市内であった第1便の発送式では、郵船ロジスティクス東北の米山勇社長が「皆さんの温かい気持ちと合わせて現地に送りたい」と語った。使い捨てカイロは空路で来月上旬にも現地に届く見込み。今後は主に船便で残りの輸送を検討している。

武田さんは「避難先で物心両面で支えられた恩返しとして、困っているウクライナの方々に支援したかった。多くの協力を得られ、人を思いやる気持ちがある日本人はまだ捨てたものじゃないと思う」と喜んだ。

ロシア軍によるエネルギー施設への攻撃で、厳寒期に暖房を断たれたウクライナの人々を支援しようと、県平和センターなどでつくる「ウクライナに『使い捨てカイロ』を送ろう会」は23日、市民から寄せられたカイロ約3万5000個をウクライナに向けて送った。

同会の武田徹代表(82)は2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、11年間ほど米沢市で過ごし、多くの県民から支援を受けた。今回は、ウクライナに関する報道を見る中で「自分も困っている人たちを応援したい」と考え、支援を呼びかけた。

同会は昨年12月から約1か月間、県内外計9か所で提供

カイロ 厳寒ウクライナへ



を受け付けた。県内をはじめ、北海道や鹿児島県など各地からカイロが届けられ、20日までに約31万個集まったという。

市民寄付、3万5000個を発送

2023.1.24
読売山形版

23日の発送式は第一貨物山形支店(山形市黄金)で行われ、同会の関係者ら約30人が出席。カイロを積んだトラックの第一便を見送った。現地への輸送は物流会社「郵船ロジスティクス」(東京)が支援する。

武田代表は「当初の予定より多く集まり驚いている。まずは子供やお年寄りの元に届いてほしい。早く戦争が終わるのを願っている」と話した。

▲ウクライナに向けてカイロを送る発送式(23日、山形市黄金で)

使い捨てカイロ ウクライナ届け

ロシアによるミサイル攻撃で深刻な電力不足に陥り、暖房のない生活を強いられているウクライナの人たちのために、山形、福島両県の有志が市民らから使い捨てカイロを集め、23日に山形市内で国際輸送に向けて出発式を行った。



市民から35万個 発送開始

不用になった使い捨てカイロを募ったのは、有志でつくる「ウクライナに『使い捨てカイロ』を送る」会。昨年12月上旬から山形市の県平和センターなど両県内9カ所を受け付け、これまでに約35万個が届いた。なかには、北海道や鹿児島県から送られてきたカイロもあるという。

カイロを募集する会の活動に賛同した第一貨物山形支店（山形市）で、寄せられたカイロを一括して保管。このうち約3万個が第一便として箱

ウクライナに送る使い捨てカイロの出発式
であいさつする武田徹さん（23日、山形市）

暖房なし「過酷な環境に負けないで」

に詰められ、大型トラックの荷台に載せられた。

国際輸送で支援するのは、同様に賛同した郵船ロジスティクス東北（山形市）。今月28日の成田発ワルシャワ行き直行便と、その後の陸送で来月初めにもウクライナに届け、船便を含めた第二便以降も調整しているという。

会の代表で福島市に住む武田徹さん（82）は第一貨物山形支店であった出発式で、カイロに同封されていた市民からの手紙の一部を読み上げた。段ボール箱10箱分のカイロを送った宮城県南三陸町の6人家族からの手紙には「過酷な環境に負けないでください」と、真冬のウクライナで耐え続ける人たちを励ます内容が書かれていた。

武田さんは、カイロや手紙から人を思いやる気持ちをいっぱい感じたという。「そのあったかい気持ちをあつたかいカイロに込めて、ウクライナに送りたい」と話した。

（辻岡大助）

ロシアによる攻撃で
住居や発電所などを

ウクライナ 侵攻

寄り添う気持ち カイロに込めて

2022.1.24 全国から31万1000個 山形で1陣出発
毎日新聞山形版



使い捨てカイロの第1陣出発式で、全国の賛同者への感謝を口にする「送ろう会」の武田徹代表＝山形市内で

破壊され、暖房のない生活を強いられるウクライナ市民へ、使い捨てカイロを送る活動の出発式が23日、山形市内であり、約3万5500個のカイロが成田空港へ出発した。28日にポーランドへ空輸し、ウクライナ政府を

通じて提供される予定。昨年12月に山形、福島県内で平和活動をする市民有志らが「ウクライナに使い捨てカイロを送ろう会」を設立。面県内9カ所の街頭などで呼びかけたところ、全国から約31万1000個のカイロが集まった。輸送手段などで国内外の運送企業の協力を得て、第1陣出発にこぎつけた。東京電力福島第1原発事故後に山形県内へ避難した経験を持つ「送ろう会」の武田徹代表(82)＝福島市＝は出発式で「集まったカイロには小学生から『お年玉で買ったカイロを、困っているウク

ライナの皆さんに役立てて』などの手紙も寄せられた。数多くの『寄り添う気持ち』を、ウクライナへ確実に送り届けたい」と話した。会には今もカイロが寄せられており、第2陣以降も輸送を続けるという。【熊田明裕】